

Ⅱ部 OCR 関連装置に関する調査

1. 2021 年の市場規模

2021 年（2021 年 1 月から 12 月）の OCR 市場は、金額ベースで約 59 億円となっており、2020 年比で約 39%減という結果になった。「デバイスタイプ」は、台数（本数）ベースで約 3 千台（本）となり 2020 年比で約 36%減、金額ベースでは、約 34 億円で約 46%減となった。2021 年に台数（本数）が減少した主な要因としては、新型コロナの影響により対面による窓口業務で用いられるオーバーヘッドスキャナによる OCR 処理が減ったため台数が減ったと考えている。金額が減少した要因に関しては、高機能・高性能のハイエンド機が減り、小型化によるローエンド機へのシフトが進んでいるためと当委員会では考えている。

「ソフトウェアタイプ」は金額ベースで横ばいの約 12 億円となっており、新型コロナの影響で、名刺を受け取って OCR を掛けることやハンコレスによる紙の領収書や請求書を OCR する用途が減った半面、AI-OCR としての用途拡大、eKYC での OCR 機会の増加があり、結果として横ばい傾向となったと考えている。また、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスなどの料金体系の変更が進んできていると推測する。RPA 連携など DX での OCR の可能性が広がっているものの、その処理に含まれる OCR ソフトウェアタイプの金額が捕捉できていないことが課題だと考えている。

「ソリューションサービス」は金額ベースで、38%減の約 13 億円となった。

2. 2024 年までの見通し

2024 年の OCR 市場は、金額ベースで約 65 億円（2020 年比 約 33%減）と見通した。タイプ別では、「デバイスタイプ」は台数ベースで約 1.4 万台、金額ベースで約 40 億円、「ソフトウェアタイプ」は金額ベースで約 11 億円と見通した。

「デバイスタイプ」は、2022 年以降、大型機から小型機への分散化やリプレース市場による台数増加はあるものの、金額ベースでは微増すると見通した。

「ソフトウェアタイプ」は 2022 年以降、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスがさらに展開されることが予想されることから減少の傾向と見通すが、一定の利用はあるため下げ止まると予測している。さらに、RPA と OCR の連携や、eKYC の本人確認など DX の伸びが期待されるため、その捕捉を検討していく。

「ソリューションサービス」は、2022 年以降はほぼ横ばいで推移するものと見通した。

以上